

米国姉妹都市派遣高校生 渡航レポート

大磯町国際交流協会事務局(柳田宅) ☎(61)0296

大磯町国際交流協会から町内在住の高校生3人が7月20日(土)から8月3日(土)までの2週間、米国オハイオ州デイトン市に派遣されました。ホームステイや市民との交流など貴重な体験をされた高校生たちのレポートをご紹介します。

なお、高校生自らがホームステイの様子について報告する「渡航報告会」を10月5日(土)、13時30分から役場本庁舎4階第1会議室にて開催します。どなたでも参加できますので、ぜひご来場ください。

デイトン市での貴重な経験 前田 彩乃

私がデイトン市へのホームステイを希望したのは、大磯町の魅力をデイトンの方々に伝えるためと、海外での仕事に興味があり、職業に対する視野を広げるためでした。

ホストファミリーをはじめ、デイトンの方々は、家族の一員のように接してくださったり、店員さんがお土産を探すのを手伝ってくださったりと、温かい方ばかりでした。

私はメディアの影響で、アメリカは銃社会であるということがとても強く印象に残っていました。しかし、実際は銃を所持している方はあまり多くないということを知り、メディアとの付き合い方をしっかり考えるべきだと痛感しました。



ホストファミリーの友人の方々が案内してくださったお店には、日本のアニメグッズが販売されており、日本の文化がアメリカで受け入れられているということに感銘を受けるとともに、その国に合う形で翻訳されていることに言語の奥深さを感じました。私はホストファミリーに大磯町の祭りや折り紙、浴衣を紹介しました。

最後に、今回のホームステイでお世話になったホストファミリー、国際交流協会の皆様をはじめ、全ての方々に心より感謝申し上げます。

新しい世界を知る 庄子 波瑠

今回デイトンに国際交流の派遣生として訪れた理由はスポーツが大好きなので、スポーツを通じて大磯町とデイトン市をつなぐ架け橋になりたいからです。

デイトンに行ってみて一番驚いたことは、人がとても紳士で優しくなったということです。今までは外国人に対して少し怖いイメージを抱いていましたが、実際には野球のスタジアムのほそい通路を通るときに「Excuse me」(すみません)とほとんどの人が言ってくれたり、街なかのお店のドアを先に入った人がずっと押さえていてくれたりと、些細な行動のなかに温かみを感じました。

英語に関しても、後悔がないようにたくさん質問しても、ホストファミリーなどが全て伝わりやすいように返してくれるのでアメリカの文化をたくさん学ぶことができました。

デイトン市はスポーツ環境が整っていて、特にホストファミリーのオスカーとは野球、バスケ、水泳、バレーなど沢山一緒に遊んで、「来年は波瑠の家に行きたい」と言うてくれたことがスポーツで世界の垣根を超えて繋がれた瞬間だと思ってとても嬉しかったです。

こんな最高の体験をサポートしてくれたホストファミリー、国際交流協会の方々に心から感謝申し上げます。



「つながり」~Voices~

中島 ひかり

私が派遣高校生を志望した理由は、自分の視野を広げ、大磯の魅力を伝えて姉妹都市のつながりを強くしたいと思ったからです。

【Voices】私がこの滞在で一番印象に残った言葉です。ここでは「声」ではなく、「主張、表現する」という意味で捉えます。この言葉は、私のホストファミリーの近所に住む日本人芸術家の方と、選挙キャンペーンで配るワードカード作りをした時にカードに書かれたものでした。実際、ホストファミリーも政治に対し自分の意見を持ち主張することが多く、日米の関心度の違いを感じました。また、ホストファミリーは【Storychain】という服役中の親が絵本を読み聞かせている録音をその子供たちに届ける活動をしていて、私もあえて日本語でお気に入りの絵本を読んで、この活動に参加しました。私の声の子供たちの支えになればとやりがいを感じるものでした。他にも、「小さな町だからこそ地域や人とのつながりが強い」という大磯の魅力をお祭りの様子や大磯で14年間続けてきたフラという自分の経験を通してプレゼンでホストファミリーに伝えたりしました。



この二週間の生活は、自分の感情や考えを表現する【Voices】の気持ちだけでも「つながり」を築き、言語の壁を越えて楽しい時間を過ごすことができると教えてくれました。今後は【Voices】を心掛けながら、日本と海外をつなぐ、地域共生のような活動をしていきたいと思います。

ラシン市から学生が来磯

町国際交流協会では、7月26日(金)から8月7日(水)までの13日間、米国姉妹都市ウィスコンシン州ラシン市の学生3人をお迎えしました。

学生たちは町内のホストファミリー宅に滞在して、町長との面談や旧吉田茂邸、箱根・東京などの見学、英会話教室の小中学生との交流、大磯ガイド協会の英語による歴史ガイド、そして着物の着付けやお茶などの日本の文化も体験しました。

滞在中は、多くの町民との交流を深め、大磯での夏の思い出をつくり、帰国されました。

